

令和4年度 南アルプス市立櫛形北小学校 学校関係者評価書

令和4年9月2日（金）
学校関係者評価委員会作成

第1回学校関係者評価委員会

日時：令和4年8月25日（木）

会場：櫛形北小学校図書室

評価者：学校関係者評価委員

- | | | |
|---------|-----------------|----------------|
| 【学校評議員】 | 横小路 淳一（元中学校校長） | 榎山 香澄（主任児童委員） |
| | 長澤 光（元中学校校長） | |
| 【各地区長】 | 杉山 博彦（曲輪田区長） | 野田 祥司（上宮地区長） |
| | 中込 修（桃園区長） | |
| 【PTA】 | 住吉 英作（PTA副会長） | 野田 春奈（PTA母親代表） |
| | 横小路さやか（PTA母親代表） | |
| 【学校】 | 佐野 紳二（校長） | 中村 博文（教頭） |

内 容

- 1 学校側から提案の内容
 - ① 学校評価の方法について
 - ② 教職員自己評価の内容と結果について
 - ③ 児童アンケートの内容と結果について
- 2 協議された主な内容
 - ① 学校評価への全体評価、項目ごとの評価・達成状況について
 - ② 学校教育全般について

〈学校関係者評価書〉

1 全体的な評価について

教職員の自己評価や児童へのアンケート調査の結果を見ると、いずれの評価においても肯定的評価が多く見られている。この結果から櫛形北小学校の教育活動は、適正に行われていると考えられる。しかしながら、否定的評価率がやや高い内容の項目も存在しているので、それらを改善できるように具体案を明確にし、指導に励んでいただきたい。

2 評価委員会の中で委員の皆様から出されたおもな意見

【学習指導について】

- ・「授業中に自分の意見を伝えている」という項目の評価が低いようだが、「Simpleプログラム」の実践や「学び合いの構築」など、先生方の指導の工夫や、子ども達を向上させようとする意欲が伝わってくる。継続した取組が成果として表れるので、次回の学校評価の結果を期待したい。
- ・「教室は間違えても良い場所」「間違えても伝えようとするのは大切」という指導のおかげで、自分の考えを伝えようという意識が向上してきている。「間違ってもよい雰囲気作り」「間違いをいかす授業ができる」という学級作りを今後も続けてほしい。

- ・タブレット端末を利用したりリモート授業を目にしたことがあるが、児童の活用能力は向上しているのかが気になる。また、情報端末を扱う上での問題点もよく耳にするが、ルールやマナーについての指導もしっかりとお願いしたい。
- ・コロナ禍に伴い実施された、タブレット端末を利用したりリモート授業はとても有り難かった。子どもは、毎日、楽しみにしていた。先生や友だちの顔が見られ、また声が聞けて刺激になり、学習意欲もわいていた。不登校児童にも有効かもしれない。

【生徒指導・生活指導について】

- ・ゲームや、YouTubeなどは時間を決めないとやり続けてしまう。また、ゲームや情報端末に触れている時間が長い程、成績が低いという調査結果も聞いたことがある。しっかりとしたルールを作り、学校と家庭が連携し、同じ歩調で指導をすることが大切だと思う。

【小中一貫教育について】

- ・この4月から楡形地区の小中学校が小中一貫校となった。小中9年間という期間をかけて、子ども達の学力向上や豊かな心の育成に繋がる指導を継続してお願いしたい。

【その他・アンケート全般について】

- ・「読書指導の充実」の評価がやや下がっていた。今の子ども達は、塾や習い事、ゲームにスマホと毎日、忙しい日々を送っている。そのためか家庭での読書の時間が確保できないのが現状である。またテストの結果を見ると、読解力や文章を書く力が備わっていないことが分かる。ぜひ学校では、朝読書を継続して実施するなどして、読書指導の充実を図っていただき、本を好きになる児童を増やしてほしい。
- ・児童のスマホの所有率の高さが気になる。持ち方や使い方については、まずは家庭での指導がとても大切である。またゲーム機の所有率も高く、通信機能でオンライン上で繋がっている児童もいることを考えると、保護者への啓蒙を含め、学校での指導もお願いしたい。
- ・一人一台端末が昨年度から学校に導入されるなど、世の中は便利になっている。辞書を引くことはなくなり、全てスマホで済んでしまう。ICT機器はとても便利ではあるが、一つの道具としてとらえ、あまり依存しないように使っていくことが大切ではないか。